第1　渡島管内の概況

1. 管内の概況

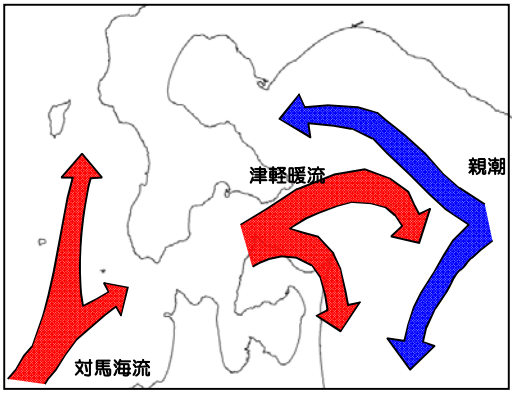
渡島管内は、北海道南西部、渡島半島に位置し、日本海、津軽海峡及び太平洋・噴火湾の3つの海域に面しており、南西端の松前町から北端の長万部町までの430.5kmに及ぶ非常に長い海岸線を有しています(旧熊石を含む)。

総面積は3,937.5k㎡で全道の4.7%を占め、長崎県（約4,131k㎡）に匹敵する広さです。2市、9町からなり、人口は389,500人と全道の7.4%を占めています。

市町村名	人口（人）	世帯数（戸）	総面積（km²）	海岸線(km)	備　考
松前町	6,996	3,958	293.3	73.2	
福島町	3,968	2,084	187.3	33.1	
知内町	4,290	2,069	196.8	19.0	
木古内町	4,066	2,170	221.9	15.7	
北斗市	46,031	22,242	397.4	20.4	H18.2.1合併（上磯町、大野町）
函館市	255,308	141,853	677.9	125.8	H16.12.1合併（函館市、戸井町、恵山町、椴法華村、南茅部町）
鹿部町	3,899	1,880	110.6	14.6	
森町	15,230	7,577	368.8	34.8	H17.4.1合併（森町、砂原町）
八雲町	16,293	8,410	956.1	55.7	H17.10.1合併（八雲町、熊石町）
長万部町	5,271	2,941	310.8	38.2	
七飯町	28,148	13,795	216.8	—	
合　計	389,500	208,979	3,937.5	430.5	

出典：住民基本台帳（令和2年1月1日現在）、平成27年国勢調査、国土交通省水管理・国土保全局編「海岸統計（平成28年版）」
国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調（令和2年10月1日現在）」

2. 水産業の概況



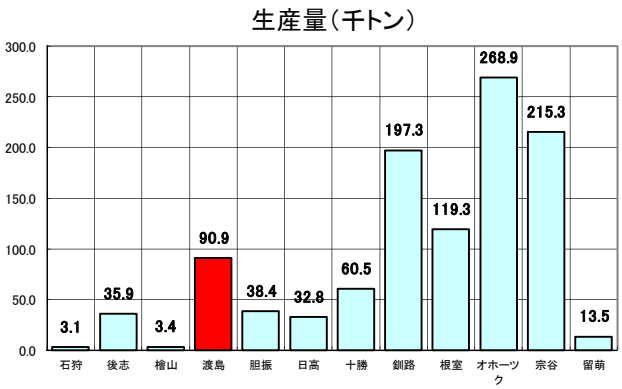
渡島管内では、日本海側は対馬海流（暖流）が北上し、その一部は津軽海峡を経て太平洋側に達します。また、太平洋側は、栄養豊富な親潮（寒流）が北から流入します。特に、暖流と寒流の混じり合う海域は魚の餌となるプランクトンが多く発生する好漁場となっています。

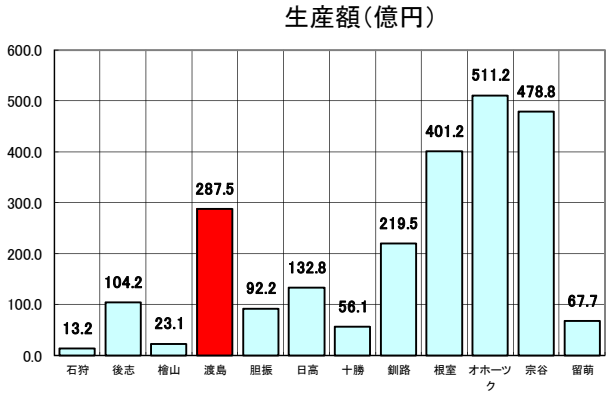
日本海側では、うに・あわび等の採介藻漁業、いか釣り漁業、まぐろ一本釣り漁業など、津軽海峡から太平洋側では、こんぶ漁業・養殖業、まぐろ延縄漁業、各種刺し網漁業や定置網漁業など、噴火湾では、ほたてがい養殖業、かれい刺し網漁業、えびかご漁業など、海域ごとに多種多様な漁業が行われています。

令和元年の漁業生産高は、生産量は90.9千tで全道（1,079.2千t）の8.4%、生産額は287.5.0億円で全道（2,387.6億円）の12.0%を占め、道内有数の漁業生産地域となっています。

近年は、資源水準の低迷などから漁業生産高は減少傾向にあり、漁業就業者の減少や高齢化が進んでいます。こうした中、振興局では、適切な資源管理や育てる漁業の推進、地域水産物の消費拡大や付加価値の向上、担い手の育成などの取組みを進めています。

【振興局別漁業生産高（令和元年）】





出典：北海道水産林務部「北海道水産現勢」

トピックス　令和２年(2020年)を振り返って

○　新型コロナウイルスの感染拡大が水産業にも影響

新型コロナウイルス感染症の拡大は、水産業にも大きな影響を及ぼしました。観光、イベントなどの自粛、飲食店の営業の制限などによって国内需要が減退し、世界的な感染拡大によって輸出も停滞し、多くの水産物の魚価が下落しました。

魚価の低迷によって、漁業者や漁業協同組合は厳しい経営を余儀なくされており、「北海道水産業の緊急対策」など各種支援策を講じながら、影響の緩和に取組んでいます。

○　ブリの消費拡大を目指した取り組みを実施

渡島管内で漁獲が増えているブリの需要を喚起し、漁業者の所得向上とイカ加工業者の補完原料としての活用を目的に、振興局の独自事業としてブリの消費拡大推進事業を進めています。

［ 3月］　ブリの燻製をベースにした「ふりかけ」(7kg)をフードバンク道南協議会を通じて養護施設などに配布を行いました。

［ 7月～］ 日本財団「海と日本プロジェクト」の一環である「トトタベローネ函館」と連携した取組を展開しました。

9月・「親子地ブリツアー」を実施。小学生の親子10組は、ブリのつかみ取りやブリ料理のフルコースを楽しみながら、生態や漁獲状況などを学びました。

10月・函館市立北美原小学校の学校給食で「函館ブリたれカツ」を児童約650名に提供し、地元で獲れるブリを味わってもらいました。

・管内の飲食店20店舗で「函館ブリたれカツ」を一斉に提供するイベント実施し、独自のタレによるブリの新たなメニューが各店舗で誕生しました。

11月・新型コロナウイルスの影響で経済的な影響を受けている大学生の食生活を支援するために開催された「食材もってけ市」に、函館水産高校と共同で開発した「ぶりのオイル漬缶詰」160缶を寄贈しました。

○　生産数量10万トン台に回復するも金額は減少

令和2年（1-12月）の渡島管内漁業生産高（速報値）は、数量が前年の9万1千トンから11万6千トン（前年比127%）に増加した一方で、金額は258億円(同90%)と減少の見込となりました。

数量では、養殖ホタテガイが、へい死によって大幅に減少した前年に比べて64%増の38,219トンとなったほか、ブリは同比68%増の11,128トンと、現在の統計を取り始めた昭和33年以降、過去最高を記録しました。

金額は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって魚価が低迷した魚種が多く、低水準にとどまっています。

【参考】 渡島総合振興局管内の概要

1　基本項目

項　目	全　道	渡島管内	割　合	振興局別順位	摘　　要
面積(km2)	83,424	3,937	4.7%	１０位	全国都道府県市区町村別面積調 （国土交通省国土地理院） （令和2年10月1日現在）
人口（人）	5,267,762	389,500	7.4%	３位	住民基本台帳（総務省） （令和2年1月1日現在）
漁業就業者数（人）	24,553	5,554	22.6%	１位	2018年漁業センサス（農林水産省） （平成30年11月1日現在）
漁業経営体数	11,089	2,885	26.0%	１位	2018年漁業センサス（農林水産省） （平成30年11月1日現在）
沿岸漁協数	71	14	19.7%	１位	北海道水産林務部調べ （令和2年8月1日現在）
港湾数	41	5	12.2%	３位	北海道水産林務部調べ (令和2年4月1日現在)
漁港数	243	57	23.5%	１位	北海道水産林務部調べ (令和2年4月1日現在)
漁船数	23,686	5,447	23.0%	１位	北海道漁船統計表 （令和元年12月末現在）
漁業生産量（t）	1,079,227	90,921	8.4%	５位	令和元年北海道水産現勢
漁業生産金額（百万円）	238,763	28,748	12.0%	４位	令和元年北海道水産現勢

※八雲町熊石地区を含む

2　主要魚種の漁獲量（令和元年）

項　目	全　道	渡島管内	割　合	振興局別順位	摘　　要
ほたてがい	391,604	23,337	6.0%	４位	１位：オホーツク(172,248t)
するめいか	11,158	2,710	24.3%	２位	１位：根室(3,382t)
ぶり	10,873	6,613	60.8%	１位	
すけとうだら	144,012	13,151	9.1%	５位	１位：オホーツク(39,411t)
こんぶ	12,908	4,502	34.9%	１位	
さけ	51,380	1,460	2.8%	７位	１位：オホーツク(20,759t)
さば	19,374	17,806	91.9%	１位	
みずだこ	18,145	1,836	10.1%	５位	１位：宗谷(4,183t)
やりいか	221	196	88.7%	１位	
なまこ	1,932	363	18.8%	２位	１位：宗谷(789t)
まぐろ	181	161	89.0%	１位	
きたむらさきうに	358	118	33.0%	１位	
わかめ	104	91	87.5%	１位	
くじら	6	5	83.3%	１位	

出典：令和元年北海道水産現勢　　※単位：トン、八雲町熊石地区を含む